

希望新聞

東日本大震災希望新聞取材班
〒100-8051(住所不要)毎日新聞生活報道部
ファクス03・3212・5177
メールkibou@mainichi.co.jp
毎週金曜日に掲載します。
被災地に役立つ情報や「伝言板」への投稿
をお待ちしています。投稿は、氏名、住所、
年齢、職業、電話番号(あればメールアドレスも)
を明記してください。

東日本大震災

放射線リスク、冷静に対応を

福島・田村の半谷輝己さん

各地で勉強会開催

「住み慣れた故郷を離れることが、心身に大きな影響を与えるリスクについていま一度考えてみませんか」――福島県田村市の塾講師、半谷輝己さん(50)が「家族のリスクマネジメン

ト勉強会」という活動を続けている。放射線のリスクと、避難によるストレスリスクを冷静に勘案し、福島の再生を考える一つの試みだ。

母は原発から3㌔の双葉町に兄夫婦と住んでいたが、事故後田村市や新潟市、役場が移転した埼玉県と移り住んだ。故郷や友人と離れ、座るか寝るかだけの避難生活。体重は半分以下に減り、昨年11月、埼玉県内の病院で衰弱して亡くなった。

「無理な避難をしなければ、もっと元気に長生きしたのではないか」と思ってしまう。母と似たような最期をとげた高齢者が多くいることを知り、「単に避難すればよいわけではない」との思いを強めた。そこで原発から20㌔圏外で毎月3・8日、年間10

半谷さんの自宅は福島第1原発から約40㌔。経営する塾で化学などを教えていたが、避難者が増え、約100人の生徒は約3分の1に減った。そこで昨年11月、



「避難のマイナス面をもっと考えよう」と訴える半谷さん

【小島正美】
14日9時半〜12時、東京都文京区春日1の文京シビックセンターで勉強会を開く。参加費500円。子連れ参加も可能。問い合わせは東京本部の堀米さん(☎090・7190・5001、メール)krn.ben.i.ifo@gmail.com)へ。